



2025年 2月27日 第2599回例会
2月第4例会

RI会長テーマ: The Magic of Rotary
「ロータリーのマジック」

本年度会長テーマ
「始めよう 誰かのために」

「平和構築と紛争予防月間」

◆ 会長時間 ◆

前橋会長



近年、国際ロータリーや地区では各クラブに向けて長期的な指針となる行動計画の策定を呼び掛けています。クラブが目標やビジョンに向けて行動することは、クラブの活性化や会員の満足度に繋がっていきます。では、行動計画を立案するうえで何をベースとして考えていくのか、まずは国際ロータリーが提唱する4つの優先事項、「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的なかわりを促す」「適応力を高める」を目指すべきところではありますが、最も大事なことは、会員が望むロータリーの姿に基づいて作られるものでなければならないということです。クラブが直面する課題を認識し、その根本的な原因に取り組む方法を見つけなくてはなりません。そうすることがクラブでの体験や地域社会での存在感を高めることに繋がっていき、会員の満足度も上がっていくはずです。

では、どこから手を付けていけばいいのか、第1段階ではクラブの現状把握です。クラブの長所と短所を認識すること、そして地域社会における機会と課題を認識すること。第2段階ではどんなクラブになりたいのか、そのビジョンを明らかにしていくことです。クラブに求める特徴や地域の人々にどのようなイメージをもってもらいたいかなどです。第3段階ではどのようにしてビジョン

を実現するかです。焦点を当てるべき優先事項を特定すること。事業系の活動であれば実行するための具体的な資金やスケジュール、必要となる物をリストアップしてみることです。第4段階としては目標に対する進捗状況の確認を行います。目標を達成できなかった場合にはその理由を特定する必要がありますし、場合によっては計画の調整や見直しを行っていきます。この4つの段階を毎年繰り返すことで、会員が理想とするクラブに近づいていけるように思います。

そして重要なことは、今お話ししたことを立案し、進めていくのはパスト会長でも直前会長でも幹事経験者でもなく、関心を持つ全ての会員が参加しなくてはならないということです。多様な見解をもつ人が多ければ多いほど会員の要望をよりよく反映した行動計画が立てられるのではないのでしょうか。言うは易く行うは難しですが、我々も取り組んでみて良い時期かもしれません。

● 委員会報告

✳ プログラム・出席委員会

出席報告 大谷委員長

本日(2月27日・木曜日)

会員数	91名	出席者	77名
欠席者	14名	ご来客	0名
ご来賓	1名	ゲスト	0名
		計	78名

4週前の例会2025年1月30日・木曜日

出席率 100%



✳️ 創立55周年記念事業C委員会 川妻副委員長



ポリオ根絶募金活動のご案内

創立55周年記念事業として「ポリオ根絶募金活動ボランティア」を下記の通り計画いたしました。皆様、是非ご参加いただけます様ご案内申し上げます。

日時／2025年4月6日(日)

8：20 広島駅集合（具体的な場所につきましては後日お知らせいたします）

8：30 募金活動開始

9：30 終了（家族会集合場所へ移動）

服装／会員の方は紫のクラブジャンパー（お持ちの方のみ）

✳️ 山縣次年度幹事

例会終了後、4階「カメリア」において第1回次年度クラブ協議会を開催いたしますので、理事役員及び各委員長は出席願います。

● 会務報告 鈴木幹事

✳️ 次週例会は創立55周年記念式典・祝賀会に変更となっておりますので、お間違えのないようお願いいたします。

● 同好会報告

🎮 紫雀会 鈴木世話人

紫雀会2月例会が、2月20日(木)午後6時より立町の麻雀マックで行われました。以前から例会で使用していた庚午クラブが残念ながら閉店となり、今後は麻雀マックがメイン会場となります。

この日の絶好調は、オブザーバーの三浦さん。勢いのある麻雀をされ優勝となりました。準優勝は、いきなりの国土無双で鈴木から6万点を

取り猛ダッシュをみせるも、惜しくも優勝を逃したオブザーバーの高田さんでした。3位は、堅実な麻雀をされました笹野君です。

次回例会は、3月20日が祝日の為、第4週の27日に麻雀マックで行いますので、お間違えのないようお願いいたします。

● 会員記念日



奥様お誕生日おめでとうございます。

(5名)

坂田君	玲子夫人
小橋君	裕子夫人
上田君	美智子夫人
大植君	香代子夫人
山中君	直美夫人



1月決算月おめでとうございます。

(4名)

笹野君	おおたけ榊
井原君	(医)井原クリニック
中岡君	榊ナカオカ
中村(光)君	榊コスモス



● スマイルボックス SAA 熊本君



🎭 中川君（自主申告・大枚）

広島ガスは、広島県内を中心とする家庭向けの電力販売エリアを、27日から中国地方に広げると発表しました。

ガス供給エリアの人口が減少する中、2025年度には関東地方などへも拡大する計画です。契約件数を現在の約2,900件から数年以内に10万件に増やす目標を掲げています。

サービス名は「このまち電気」。電力はすべて卸市場から調達します。

市場連動型の価格設定と、変動を緩やかに

するメニューを組み合わせ、新たなニーズを掘り起こしていきます。

社運をかけて、兄弟げんかをしますので、大枚で出宝します。

山縣君

今月23日、陸上競技会「ジャパン アスリート ゲームズ in 大崎」が開催され、山縣 亮太選手は100mと60mに出場されました。

右足の故障から10か月ぶりの復帰レースで、1日に予選と決勝で合計4本のレースを走り切り、100mで10秒43で優勝、60mは6秒66の大会新で優勝されました。

まだ全快ではないようですが、日本最速のスプリンターが再び動き始めました。

亮太お父さんをスマイルにご招待いたします。

紫雀会 笹野君

紫雀会2月例会（2月20日）の優勝はオブザーバーの三浦さん。準優勝もオブザーバーの高田さんでした。

3位に甘んじた唯一の現役会員 笹野君、出宝お願いいたします。

全会員の皆様

1905年2月23日、世界で最初のロータリークラブがポール・ハリスと3人の友人達によってシカゴで設立されました。今では国境を越え、200以上の国と地域に広がり、120万人のロータリアンが奉仕のために活動しています。

来月には、我が広島西RCも創立55周年を迎えますが、120年前のこの日があったからこそ、この広島の地で出会い、ともにロータリアンとして活動できることに感謝し、お祝いしましょう。

会員の皆様のご健康とご多幸を祈念し、全員出宝とさせていただきます。

国際奉仕部門クラブフォーラム



「平和構築と紛争解決に向けて」

企業コンサルタント
西田 英範氏

世界の平和の構築を願うのは、広島県民共通の思いだと思います。今週の2月24日において、ロシアによるウクライナ侵攻から3年を迎えました。世界の平和が維持できるかどうかの大切な岐路にあるのが今です。私は、8年前、米国のアジア太平洋軍司令官にお会いした際に、「極東」すなわち西太平洋地域において、将来は、非民主主義国家である中国の軍事力が、米国の軍事力を凌駕することが明らかであると説明を受けました。平和憲法と日米安保同盟の下、日本を取り巻く安全保障が脆弱なものになりつつあるという不安を覚えているから、安全保障について対処が必要と考えるようになりました。

今年、被爆80年を迎える年であります。昨年、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が、ノーベル平和賞を授賞されたことは、とても素晴らしいニュースでありました。G7広島サミットにおける広島からの発信に続き、世界に対する核廃絶に向けた強いメッセージになるものと信じております。私たち広島市民は、引き続き被爆の実相を世界に伝えていく役割があります。唯一の戦争被爆国として、次なる核兵器の使用を断固として防ぎ、核なき世界を実現していかなければなりません。

私たちの思いとは裏腹に、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザ戦争といった武力紛争が現実となり、核なき世界には近づいておらず、核保有数でいえば、ロシア5,500発、米国5,000発、中国500発、英国500発、仏国500発など、核軍縮が順調に進んでいるわけではありません。北朝鮮は、安保理決議に違反して核・ミサイル開発やICBM級弾道ミサイル発射等を継続しており、インド、パキスタン、イスラエルにおける核保有、イランの核開発疑惑等など、核の拡散という由々しき事態にあります。これまで核軍縮については、

卓話予告

日時	テーマ
3/13(木)	「今後の不動産広島市場・東京の不動産動向」 三井不動産リアルティ中国(株) 代表取締役 佐々木 潤氏 営業部長 岡本 泰彦氏

これまで長年かけて国際的な交渉・取組が行われてきました。核不拡散の秩序の根幹は、核兵器不拡散条約、NPTによる国際体制です。NPTは、190カ国が参加し、1970年に発効されました。インド・パキスタン・北朝鮮が非参加です。NPTは、核軍縮、核不拡散、原子力の平和的利用の三つを柱として、①核軍縮については、核軍縮の交渉を行う義務を定めており、②核不拡散については、米露英仏を「核保有国」と定め、それ以外の国への核兵器の拡散を防止しています。このNPT体制の揺らぎこそが問題なのであり、この秩序の維持・回復が重要です。2022年、NPT運用検討会議において、日本の総理大臣として初めて、岸田文雄総理大臣が出席し、一般討論演説を行いました。「核兵器のない世界」という理想と、「厳しい安全保障環境」という現実を結びつけるため、現実的なロードマップの一つとして「ヒロシマ・アクション・プラン」を示され、①核兵器不使用の継続、②核戦力の透明性向上、③核兵器数の減少傾向の維持、一層の削減に向けた米露間の対話の支持、核軍縮・軍備管理に関する米中間の対話の後押しなどを提唱しました。こうした流れの下、2024年には、米国ニューヨークにおいて、上川外務大臣が、我が国議長下で初めてとなる「核軍縮・不拡散」に関する閣僚会合を主催し、NPT体制の維持・強化を基盤として、ヒロシマ・アクション・プランの実行の重要性等を強調しました。NPT以外の枠組みとして、あらゆる場所における核兵器の実験的爆発等を禁止する包括的核実験禁止条約、CTBTがありますが、発効要件国44カ国のうち9カ国が未批准のため、条約自体は未発効となっております。

こうした中、核兵器に使用される核分裂物質そのものの生産を禁止し、核兵器の量をこれ以上増やさないと重要となります。それを目的とした条約が、核兵器用核分裂物質禁止条約であり、FMCTであり、岸田政権の下、強力に外交努力を進めてこられました。オーストラリア、フィリピンといった国との共催で、FMCTハイレベル会合があり、近年かつてなくFMCTに対する政治的関心を集めました。併せて、核軍縮・不拡散に安保理閣僚級会合において、日本のとりまとめにより「FMCTフレンズ」を立ち上げるなど、現実的・

実践的な取組として、FMCTの即時交渉開始を重視しているところです。

核兵器禁止条約について申し上げます。同条約は、「核兵器のない世界」への出口とも言える極めて重要な条約です。我が国は、厳しい安全保障環境のもと、核による抑止力により、国土への国家的な攻撃を防いできた面があると評価しうると言えます。この点、核兵器禁止条約をとりまく国々は、核による拡大抑止を必要とする国々と、核による抑止という考え方自体を強く否定する国々もいる現状があり、それらによる分断が懸念されることです。オブザーバー参加したことのある国による、同国は、締約国会合において、核抑止を強調しつつ、同条約は、同国の安全保障政策と根本的に相容れないとの発言をされています。こうしたことを総合的に勘案しますと、核保有国と非核保有国の橋渡し役を担い、全体として核軍縮、ひいては「核兵器のない世界」に向かっていくことを目指す我が国として、同条約にオブザーバー参加することが、それに整合的かどうか慎重に見極める必要があります。我が国としては、まずは、NPT体制の堅持を通じた国際的な各軍縮・不拡散の進展を進めていくことが何よりも重要であります。いずれにしましても、被爆地広島として、私たちは、引き続き、被爆の実相を世界に積極的・効果的に発信し続けて、「核兵器のない世界」に向けて、核軍縮に係る取組を後押しをしていくことなど、揺るぎなく努力をしていかなければなりません。

さて、そうした全体的な核軍縮に加えて、日本を取り巻く安全保障環境の悪化を踏まえ、安全保障体制・秩序の構築を早急に進めていかなければなりません。ロシアによるウクライナ侵攻に見られるように、かつてのように、日米同盟や、国連を中心とした集団安全保障体制、自由と民主主義を前提とした国際秩序といったものが崩れてきたことは明らかです。加えて、ウクライナ戦争を通じて、非民主主義国家かつ核兵器保有国であるロシア、中国、北朝鮮の軍事的関係が緊密化しました。核兵器を持たない、民主主義国家、さらには、NATOのような多国間の集団安全保障体制にない我が国は、極めて厳しい環境にあると言えます。日本は、世界からすると、紛争懸念の高い国

とみなされていると言われるに至っています。今後は、自国を守るために戦略的な体制作りを急いでいかなければなりません。この点、安倍政権・岸田政権を通じて、脅威の見積もりを見直し、安保関連三文書をはじめ、日本の国家安全保障戦略の見直しが行われてきました。北朝鮮は、ここ10年で、核弾頭の実用化を進め、具体的な脅威となりました。中国は、約30年の間で、公表ベースだけでみても、国防費を約39倍に拡大させてきました。未公表のことも含めると大きな脅威となっております。また、「もともと大陸国家」で海軍力はそれほどでもなかったものから大きく変容し、遼寧を皮切りに空母3隻を建造し、日米の海洋上の防衛力を凌駕するレベルになってきました。例えば、射程の広い空母キラーと呼ばれるミサイルの配備などにより、米国の空母打撃の行動を制約しかねない状況にもなってきました。また、頻繁に日本近海の海洋調査を通じて、具体的な軍事作戦を念頭においた準備を進めてきていると言えます。ロシアについても、この10年間で、日口関係は急速に厳しいものとなりました。ロシアは、中国と連携した実弾演習を行ってきたことに加え、具体的な対日作戦が立案されているといった報道など、脅威がさらに高まってきました。

また、戦い方、戦争の形もが大きく変わってきました。宇宙空間をはじめとした空間の広がりや、AI・ドローンその他高いICT技術を伴う兵器の開発・実用化、サイバー攻撃や、そのみならずSNS等のインターネット空間における誤情報の拡散など情報戦の高度化・多様化も見られ、従来の防衛装備体制だけでは対応できなくなってきました。日本としては、まずは、自由と民主主義の価値を共有する同志国の連携体制をさらに強めていく必要があります。そのため、米国のみならず、NATOも含め多極的な外交対応をさらに強めていく必要があります。

また、米国やNATO諸国等をはじめ同志国にとって欠かせない存在になることです。次世代戦闘機であるF3の開発を英国・イタリアと連携し、防衛装備品の移転の円滑化を進めることは極めて重要です。日本の部品や技術がなければ自国を守れないと思ってもらえるような対応が必要です。米国は、世界最高レベルの海軍を持っていますが、造

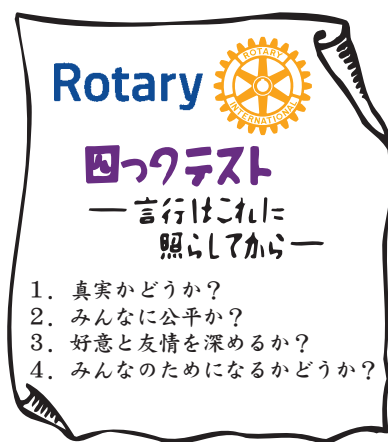
船能力は、中国がはるかに上回っている現実があります。日本の造船能力や、整備能力をさらに強化し、同志国との連携を深めることにより、「日本が欠かせない国」という地位を確立していくことが重要です。そして、最後に、自分の国を自分で守るとしての最低限の体制を整えることが必要です。自らの命をかけて、日本の領土領海領空と国民のいのちを守るために防衛の任を果たされる自衛隊に、現行憲法のもと「必要最小限度」の範囲で対応を求めるという形のままでは、実際の有事の際に国を守ることはできません。平和を守る、戦争を起こさせないという観点から、憲法も含めて日本の体制を、国民みんなで議論して、見つめ直していくことが必要です。

被爆80年を迎える本年において、二度と核兵器により市民の命が奪われるという事態を起こさせないよう、核軍縮・不拡散の取組と、我が国の安全保障体制の見直しをしっかりと進めていかなければなりません。

ご静聴ありがとうございました。

卓話をいただいた西田様の話しを踏まえ、「平和構築と紛争予防」に、ロータリーとしてどう関わっていけばよいか、等の議論を3グループに分かれ行ないました。





例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 前橋 寛
幹事 鈴木 義尚

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC

検索 